

演題名	皮膚型牛白血病の発生		
発表者 氏名	遠藤純子	所属	飯田家畜保健衛生所
<p>平成10年10月に、管内A牧場に放牧していた育成牛1頭が、体表全域に実質性腫瘍の発現、食欲低下及び沈うつ、との主訴で、担当獣医師から家畜保健衛生所へ病性鑑定の依頼があった。血液検査及び寄生虫検査においては、異常所見は認められず。牛白血病ウイルス抗体は陰性であったため皮膚型牛白血病を疑い、皮膚を切開し腫瘍組織を採材、塗抹後に鏡検したところ、異型リンパ球が多数認められた。その後症状に改善はみられず、関係者と検討した結果鑑定殺を行った。</p> <p>剖検所見では、小豆大から手拳大の腫瘍が全身の皮膚組織に形成され、一部は皮下織に達していた。各所リンパ節は腫大し、両側の浅頸リンパ節は小児頭大で、リンパ節周囲の皮下織は全体に浮腫を呈していた。病理組織所見では、真皮にリンパ球様細胞の腫瘍性増殖、び慢性浸潤を認めた。各所リンパ節にも同様に腫瘍細胞の増殖浸潤があり、リンパ濾胞等組織の破壊像がみられた。</p> <p>以上の所見から、本症例を皮膚型牛白血病と診断した。</p>			